

平成 28 年 4 月 28 日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 松沢成文です。

私も、引き続いて、この東京五輪の大会の運営経費、準備の経費についてお伺いをしていきたいと思います。

まず、テロ対策ですね。これ、イスラム国の問題もあり、今ヨーロッパでも大きなテロ事件が起きています。これをこういうオリンピックなんかでやられたらたまりませんので、しっかりと予防することは必要だと思いますけれども、このテロ対策などのセキュリティー関係費、これをどれぐらい見込んでいるのか。

これ、実は、招致段階では、そのファイルにあったんでしょうか、二百億円だったんですね。でも、その後、イスラム国の様々な緊張があったりして、現状ではこんなのじゃ足りないということで検討されていると思うんですが、ロンドン大会は一千六百億円使っているんですよ。ですから、この二百億円で東京大会のテロ対策、セキュリティーができるとは到底思えないんですが、これ、どれぐらいを見込んでいるんでしょうか。

○政府参考人（石田高久君） お答えいたします。

セキュリティーに要する経費についてのお尋ねでございますが、国際テロなどの治安情勢が一段と厳しさを増す中で、大会の安全かつ円滑な開催に万全を期するためには相応の警備が必要になると認識いたしております。

現在、大会組織委員会におきまして東京大会成功に必要な業務の全ての洗い出しを行い、セキュリティーに係る経費につきましてもその中でしっかりと精査されているところであると承知をしておりますので、現時点ではどの程度の経費が必要となるかをお示しすることは困難であることを御理解願いたいと思います。

○松沢成文君 ただいま答弁の中で、国際的なテロの状況もある、相応の経費が掛かると言うと言っていました。これは、招致段階の二百億円よりも当然増えますよね、増えるという方向での相応の経費ですよ。これ、行革でもっともっと削って、二百億円を百億円にできるんじゃないかと、コストの問題を今議論されていますから。これは、相当増えるという意味で相応の経費が掛かるといふふうに考えてよろしいんですね。それぐらいは言えると思うんですけどね。

○政府参考人（石田高久君） 先ほどお答えさせていただいたとおりでございますが、国際テロなどの治安情勢が一段と厳しさを増しております。そういった中で大会の安全かつ円滑

な開催を行うためには相応の警備が必要となり、そのためには相応の費用が必要になってくるといふふうに認識いたしております。

○松沢成文君 これ、相応の警備に相応の費用ですから、これはもう相当増えざるを得ないと認識せざるを得ません。

次に、交通関係の経費で、これ首都高速道路で選手を運んだりあるいは観客を運んだりするために、専用レーンを設置して、高速道路会社に営業補償などを行う関係費、これが相当出てくると思うんですけども、これはどれぐらいになると現状で見込んでおられるでしょうか。

○政府参考人（芦立訓君） 御説明申し上げます。

御指摘の首都高速道路の専用レーンなども含めまして、大会の開催に伴いましてどのような施設をどの規模でどの程度の期間利用するかということについて、ただいま組織委員会において検討しているところでございます。

したがって、具体的な費用につきまして現時点でお答えできませんことを御理解賜ればと存じます。

○松沢成文君 鋭意精査しているので検討中ということの答弁なんですけれども、私がこの委員会でもよく取り上げてきたゴルフ場の会場問題なんかでも、東京湾の真ん中の若洲ゴルフリンクスでやれば、ほとんど交通経費掛からないわけです、選手村のすぐ近くですから。ところが、どおんと遠い霞ヶ関、六十キロ離れている。もう首都高を通過して外郭通過して関越道通過して。相当のギャラリーも行くし、選手も運ばなきゃいけない。これ、専用レーン造るんですよ。一説によると、専用レーンの補償費だけで千八百億円掛かるという報道すらあるんですね。

ですから、こうやって、コンパクト五輪じゃなくて、どんどんどんどん会場を周辺に出すことによって、セキュリティー費も掛かるようになるし、交通費も掛かるようになってくるんですね。ですから、これはどう見ても増えているんですね。

さて、遠藤大臣、コンパクト五輪というのが一つの東京五輪のある意味でポリシーでありました。ところが、コンパクト五輪で何でも選手村の周辺で近くで無理してやろうとすると、いろんなまた会場を造らなきゃいけない、ちょっと遠くまで行けばいい会場はあると。例えば幕張メッセもすばらしい会場じゃないかと。あるいは、ヨットの会場、いろいろ東京湾だと難しいところもあるので相模湾の江の島でやろうじゃないかと。まあいいですよ。コンパクト五輪の例外をつくって、そういうふうに会場を幾つも首都圏に広げていったわけですね。

ですから、コンパクト五輪の一つの目標であるコストの削減というのが、このコンパクト五輪というポリシーを緩和することによって、遠くの会場を使う、ですから、そこでのセキュリティ費、そこへの交通費でコストが増になっちゃっている、こういう逆転現象が起きているんですね。これについて、大臣、どうお考えですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 今、松沢委員御指摘のように、二〇一四年十二月のI O C総会にて採択されましたオリンピック・アジェンダ二〇二〇は、会場の建設費等による開催都市の財政負担への懸念を背景として、既存施設の活用を促すとともに、地理的要因や持続可能性の理由から、開催都市以外での競技の実施が認められたところであります。

東京大会の会場については、アジェンダ二〇二〇の趣旨を踏まえつつ、アスリートの視点、レガシーの創造、コスト抑制の観点等を総合的に勘案し、東京都の施設を中心に立候補ファイルの会場の見直し、選定を行っているところであります。会場整備のみならず、大会開催経費についてはコストをできる限り抑制することが重要と考えておりますので、組織委員会に対して私からもその旨を促してまいりたいと思います。

○松沢成文君 私、今取り上げましたセキュリティ関係費、これは相当大きくなっていきます。それから、遠くの会場も使いますから、高速道路の専用レーンを使う、この交通関係費もかなり増えていきます。これ、恐らく一千億単位だと思いますよ。

それから、プラス新たな競技が、東京五輪で望んでいますよね、野球とかソフトボール。そうすると、会場もまた増えるわけです。これはコスト増要因ですよ、競技が増えるわけですから。そうすると、最初に招致段階で七千三百億円と言っていたのが一千億単位でどんどんどんどん増えていくから、森大会組織委員会会長は二兆円ぐらいになるんじゃないか、それを受けて舛添知事はいやいや三兆円ぐらい確保してくれと。こうやって、もう国民にアナウンス効果を狙って、相当掛かっちゃいますよ、覚悟してくださいねということ漏らしているわけですよ。

そこで、私は、七千億がいろいろ諸般の事情で八千億、九千億ぐらいになる、これはあり得ると思います。でも、行革努力をするから国民理解してください。七千三百億が二兆、三兆になっていくわけです。足りない部分は全部東京都の税金で補填する、あるいは国税で補填するわけですね。これ、国民からしてみると公約違反なんです。全くの公約違反です。だから、これを勝手に為政者の皆さんが、つまりは組織委員会や都や国が勝手に諸般の事情で七千三百億が三兆円になったと、はい、I O Cと交渉してオーケーもらったから国民負担してくださいねと、これ、許されるんでしょうか。これ、おかしいですよ。

さあ、そこで、遠藤大臣、私、前日も言いましたけれども、ロンドン五輪では、先ほど田

村委員からも御指摘あった、五年前に組織委員会が今回のロンドン五輪に掛かる経費を公に、国民に公表しているんです。そこで国会の中の監査の機能も受けて、そして下院でも議論してもらって、またそれによって修正しているんですよ。こういうプロセス踏んでいるんです。それが、日本の場合は、たくさん掛かりますよ、組織委員会会長は二兆円だ、都知事は三兆円だ。それで、じゃ、いつそれが出てくるんだといたら、八月頃に出ます、八月にI O Cと調整して決めていきますと。

これだけの税金が使われる可能性が大なのに、それも公約違反で使われる可能性が大なのに、国民に公表しない、国会でも議論しない、I O Cで決定してから、はい、従ってください。これ、許されると思いますか。それやっちゃったら、失礼ですけど、オリパラ担当大臣、ちょっと立場まずくなっちゃうと思いますよ。国民の人気、がた落ちになっちゃうと思いますよ。

ですから、私、もう一度お願いしたいんですが、八月にI O Cと交渉する前に、協議をする前に、六月でもいいです、七月でもいいですよ、まあ国会やっているときの方がいいな、これ参議院の選挙だからなかなかできないんですけど、ちゃんと国民に、東京五輪、どれぐらいの経費が掛かりそうだ、幾ら行革努力をしても諸般の事情でこれぐらい掛かりそうだと、いうことをまず公表してください。そして、I O Cと調整する、その前に公表してきちっと国会でも議論をしていただくというのは、これは政府として、私は、当たり前前の行為だし、むしろ組織委員会とそれを調整して国民の皆さんに公表していくのがオリパラ大臣の責務じゃないですか。いかがでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 松沢委員から御意見をいただきました。

まずは、今、組織委員会として全ての業務を洗い出しをしております。それを踏まえてI O Cと協議をします。その段階で説明をいただきますから、そこはしっかりと公表させていただきたいと思っております。

○松沢成文君 I O Cと協議をして、I O Cとしてはちゃんと開催してもらえばいいわけだから、組織委員会のお金で足りなければ東京都が補填する、それでも足りなければ国が補填するといつてある意味で契約結んじゃっているわけですから、こちらと、I O Cはそれでいいんですよ。

ただ、そんなことを知らされる国民というのは不幸ですよ。だって、公約違反ですもん。七千三百億といつて招致をしたんです。コンパクト五輪だといつて招致をしたんです。コンパクトじゃ全然なくなって経費は膨大に増えて、二兆、三兆となって、それでI O Cと調整が整っちゃったから税金使いますよって、これ、許されるんでしょうか。

ここはきちっと I O C と調整する前に国民に公表する、それをやり遂げるのが国民本位に立ったオリパラ担当大臣の役割じゃないですか。国民に公表するということを書いてくださいよ。あなたの権限でできるんですから。

○国務大臣（遠藤利明君） ロンドンにおいての組織は、再開発全体、地域全体の再開発をする、そういう観点から予算を組んだものと承知をしております。

東京組織委員会におきましては、二〇二〇年の大会がしっかり運営できるよう、その意味で今業務の洗い出しをしておりますので、その業務の洗い出しを受けて報告をいただけたらと思っております。

○松沢成文君 それは、組織委員会は業務の洗い出しをやって報告すると思います、大臣には。

大臣は、I O C と調整をする前に、それが幾らぐらいで、国民の皆さん、これでよろしいでしょうかと行ってまず国民に信を問う、これをやらない限り、ひょっとしたら国会で、こんなめっちゃくちゃなことやったら、その予算付け、否決されちゃう可能性もありますよ。私は国民は怒ると思います。

オリンピックは成功させたいんです。でも、やっぱり当初の方針で頑張っ、できるだけ経費を削減してコンパクトでやるべきなんです。それなのに、ゴルフ会場じゃないけれども、六十キロも離れて、物すごく暑くて、交通費にめっちゃくちゃお金が掛かるような会場を設定して、それを見直すべきだと言っても、もう決めちゃったことですからとって何の見直しもしない。精査していないんですよ。

ゴルフの会場を霞ヶ関から若洲に変えれば、交通費掛からない、セキュリティー費掛からない、選手も熱中症にならない、観客も熱中症でばたばた倒れない、こちらの方が成功するに決まっているんです、コースも倉本会長が十分対応できると言っているんですから。それを、ゴルフのインサイダーの人たちが決めた、もう決まっちゃたんだからこれでいく、走っちゃっているわけです。

そこで、おかしいじゃないかと、コストの面でも天候の面でもアスリートファーストの面でもおかしいじゃないかと疑問を呈してその見直しを行う、そういう勇気がなければこのオリンピック成功しないですよ、大臣。やるがままじゃないですか、インサイダーの人たちの。

ゴルフの会場を是非とも再検討するよう政治決断をしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 二〇二〇年東京大会のゴルフ場につきましては、大会組織委員

会が、コースの良しあしなど競技性の観点のほか、競技者や観客への配慮、アクセスや宿泊などを含む大会運営及びコスト等の観点を踏まえ、総合的、多角的な考慮の下に、国内外の競技団体と協議した結果、霞ヶ関カンツリー倶楽部として決定し、I O Cの了承を得たものであると承知をしております。

私としては、このような大会組織委員会の決定を尊重してまいりたいと思っております。

○松沢成文君 時間ですので、終わります。

ありがとうございました。